

長崎県観光動向調査 (令和4年1～3月分)

主要指標

令和4年1～3月

	対象施設	延べ宿泊客数 利用者数	R4-R3 同期比		(参考)R4-R2 同期比
			増減率	増減数	増減率
主要宿泊施設	197	818千人	+31.7%	+197千人	▲18.6%
主要観光施設	28	615千人	+23.1%	+115千人	▲34.7%

(参考) 令和3年10～12月

	対象施設	延べ宿泊客数 利用者数	R3-R2 同期比		(参考)R3-R1 同期比
			増減率	増減数	増減率
主要宿泊施設	195	1,342千人	+3.3%	+43千人	▲10.1%
主要観光施設	28	1,311千人	+7.9%	+96千人	▲16.1%

	主要宿泊施設 客室稼働率	前年同期比 (ポイント)
1～3月累計	47.0%	+7.0
1月	43.5%	+12.2
2月	38.7%	+0.5
3月	57.7%	+7.8

概況

主要宿泊施設の宿泊客数は、1月は旅行割引を隣県まで対象拡大した効果などにより、対前年同期比+74.8%となったものの、2月は感染力が強いオミクロン株の急拡大を受けてまん延防止等重点措置が適用されたことなどから低調となり、1～3月全体で対前年同期比+31.7%となった。

令和3年1～3月期は、第3波の影響で国のGoToトラベル事業が一斉停止した影響等により旅行需要は著しく低下した状況にあったことから、令和4年1～3月期は対前年同期比で見ると改善傾向にあるものの、コロナ禍前の対前々年同期比では18.6%と依然持ち直したとは言えない状況にある。

主要観光施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、長崎市などの主な観光施設が休館を余儀なくされた時期があったものの、3月には旅行割引の効果などにより旅行需要が喚起され、複数の施設で利用者が前々年を上回るなど好調であったことから、対前年同期比は+23.1%となった。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

主要観光施設の利用者数が対前年増となったことや、県の旅行割引の効果などにより関東や福岡からの宿泊客数が増加したことなどから、1～3月期全体の宿泊客数の対前年同期比は+32.9%となった。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

県や一部市による旅行割引の効果やハウステンボス及びその周辺の宿泊施設において宿泊客が増加したことから、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+48.3%となった。

【平戸・松浦ブロック】

県や一部市による旅行割引の効果などにより、県内客を中心に観光需要の回復が見られたことから、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+63.0%と大幅に増加した。

【諫早・大村ブロック】

電子部品関連等のビジネス客の宿泊需要が堅調に推移していることなどから、前年同時期に県内唯一増減率がプラスとなっており、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+0.8%となった。

【島原半島ブロック】

1月の宿泊客数の対前年同月比は、福岡や県内客など近隣からの宿泊客の増加で+98.9%となったことなどから、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+29.2%となった。

【五島ブロック】

ビジネス客の宿泊需要が堅調に推移したことなどから、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+32.6%となった。

【壱岐ブロック】

1月まで実施した県の旅行割引の効果などにより1月の宿泊客数の対前年同月比は+94.1%となり、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+17.7%となった。

【対馬ブロック】

県や市による旅行割引の効果などにより、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+18.1%となった。

【参考】外国人観光客（宿泊客）の動向

佐世保地区の米軍基地関連におけるアメリカの宿泊需要は一定あるものの、新型コロナウイルス感染拡大により多くの国・地域で海外渡航制限等の措置が取られていることなどから、1～3月期の外国人宿泊者数は対前年同期比 15.9%、対前々年同期比 80.8%となった。

(参考資料)



